

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 28 年 9 月 1 日 (2016.9.1)

【公表番号】特表 2015-528035 (P2015-528035A)

【公表日】平成 27 年 9 月 24 日 (2015.9.24)

【年通号数】公開・登録公報 2015-059

【出願番号】特願 2015-521068 (P2015-521068)

【国際特許分類】

C 0 9 D 1/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/18 (2006.01)

B 0 5 D 5/00 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/18

B 0 5 D 5/00 E

B 0 5 D 7/24 3 0 3 B

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 7 月 8 日 (2016.7.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

微細膨積バーミキュライト粒子の水性懸濁液を含む、耐火および/または防火特性を有するスプレー塗料であって、前記バーミキュライト粒子が、化学的に剥離されたバーミキュライトと熱的に剥離されたバーミキュライトとの混合物よりなり、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の 75 重量% ~ 99 重量% であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の 25 重量% ~ 1 重量% である、スプレー塗料。

【請求項 2】

請求項 1 のスプレー塗料において、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の 88 重量% ~ 96 重量% であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の 12 重量% ~ 4 重量% である、スプレー塗料。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の約 95 重量% であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の約 5 重量% である、スプレー塗料。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、1 nm ~ 1000 μm の粒度を有している、スプレー塗料。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、300 μm 以下の最大粒度を有する膨積バーミキュライトを含んでいる、スプレー塗料。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子は、 $50\mu\text{m} \sim 300\mu\text{m}$ の D90 を有し、好ましくは、 $100\mu\text{m} \sim 250\mu\text{m}$ 、より好ましくは、 $150\mu\text{m} \sim 200\mu\text{m}$ である、スプレー塗料。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、 $100\mu\text{m} \sim 250\mu\text{m}$ の D90 を有する、スプレー塗料。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、 $150\mu\text{m} \sim 200\mu\text{m}$ の D90 を有する、スプレー塗料。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 3 重量% ~ 約 40 重量% のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 10 重量% ~ 約 30 重量% のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 15 重量% ~ 約 25 重量% のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 20 重量% のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 12 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20rpm として計測したときに $5,500\text{cps} \sim 10,000\text{cps}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 14】

請求項 1 ~ 13 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20rpm として計測したときに $8,000\text{cps} \sim 9,000\text{cps}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 15】

請求項 1 ~ 14 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20rpm として計測したときに $8,400\text{cps} \sim 8,700\text{cps}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 16】

請求項 1 ~ 15 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20rpm として計測したときに $8,500\text{cps} \sim 8,600\text{cps}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 17】

請求項 1 ~ 16 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 6 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存する、スプレー塗料。

【請求項 18】

請求項 1 ~ 17 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 12 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存している、スプレー塗料。

【請求項 19】

請求項 1 ~ 18 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 24 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存する、スプレー塗料。

【請求項 20】

請求項 1 ~ 19 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、3 つの層にスプレーすること

によって用いられるとき、B S 7 7 6 P a r t 6 および / または 7 の最も厳しい試験に合格する、スプレー塗料。

【請求項 2 1】

基材に対して耐火または防火特性を付与するための方法であって、前記いずれかの請求項に記載のスプレー塗料を前記基材にスプレーすることを含む、方法。

【請求項 2 2】

請求項 2 1 に記載の方法であって、前記基材が木である、方法。

【請求項 2 3】

請求項 2 1 または 2 2 に記載の方法であって、前記スプレー塗料が、主要なセメント系耐火構造コーティングに対する補助層として用いられない、方法。

【請求項 2 4】

請求項 2 1 ~ 2 3 のいずれか一項に記載の方法であって、前記スプレー塗料が、1 以上のコーティング内の前記基材に直接用いられる、方法。

【請求項 2 5】

請求項 2 1 ~ 2 4 のいずれか一項に記載の方法であって、前記カラーコーティングまたは装飾層が、前記スプレー塗料上に用いられる、方法。

【請求項 2 6】

請求項 1 ~ 2 0 のいずれか一項に記載のスプレー塗料の 1 種以上のコーティングによってコートされた基材。